

ビューチフルドリーマーカップ

OP牝・ダート2000m M1
8月30日（日）盛岡競馬場

昨年の優勝馬・ロ＝リエフレイバー



GDJ2026／(株)優駿協賛／スポーツニッポン杯

第52回 ビューチフルドリーマーカップ（M1） （ドンフランキー賞）

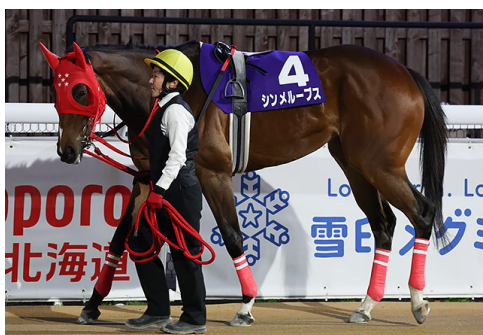
盛岡競馬場／3歳以上OP牝・地方競馬全国交流・ダート2000m

8月30日（日）第12競走 19：15発走

ビューチフルドリーマーは明治40年に小岩井農場が輸入した牝馬で、日本の競馬における「キング・オブ・マザー」と呼ぶにふさわしい繁殖牝馬でした。

本競走はその偉大な母の名をいただいて1975年に創設。当初は特別競走として、2000年からは重賞競走に格上げされつつ岩手の古馬・牝馬の頂点となる戦いとして根付いてきました。第32回・33回を連覇したサイレントエクセルはのちに岩手ダービー馬チャイヤプーンを送り出すなど、このレースの勝ち馬もまた未来へと血筋を繋いでいます。

■シンメループス(牝5 浦和・野口寛仁厩舎)



浦和デビューで2歳新馬勝ち、昨年はほぼ1シーズンを門別所属で戦って昨冬から浦和に戻っている本馬。短距離側での好走も少なくないが本領発揮はやはり4勝を挙げている1800m以上の距離のようだ。「良い意味で遊びながら走るところがあるので短距離だとやはり忙しい。3歳時の関東オークスでいきなり2100mを使ったら凄い競馬をしてくれて、それ以来長い距離を意識して使うようにしていました」と野口師。確かに中距離の牝馬重賞では遠征競馬でも大崩れしていない馬だ。直近の着順だけで軽視するのは当然禁物だ。

休み明けの前走をひと叩きしてこのレースは当初の予定通り。目標にしていたので調整も順調です。気分良くレースに向かってくれば力を出してくれるでしょう（野口寛仁調教師）

■チャチャハツゴウ(牝4 川崎・林隆之厩舎)



前走の門別ノースクイーンCで自身の初重賞制覇。「9頭立て5番人気からの逃げ切り」と書くとフロック感が生じてしまうが、実際は地元の1番人気相手に最後まで譲らなかった粘り腰の勝利で“強い”という印象しかなかった点は強調したい。「マイルを使ったりもしたが長い距離が良いと再確認。ロジータ記念の競馬ができるのだから2000mも歓迎です（林師）」。林師はこのレースに過去4度挑んで（1-1-1-1）の好成績を残す。人馬共にここで“二つめのタイトル”へ虎視眈々。

前走後は戻ってきて疲れもそれほど見られず、中間や追い切りもしっかりした動きで納得のいく内容。極めて順調、イメージ通りに来ることができましたね。（林隆之調教師）

■ラブラブパイロ(牝7 大井・荒井朋弘厩舎)



このレースには今年で3年連続出走、一昨年は2着、昨年は3着の結果を残す。ノースクイーンCからの転戦になるのも過去2年同様で、そちらはこの3年で1着、2着、3着という結果。これだけを見るとどうしても後退気味の印象になってしまうのだが、前走にしても直線だけで3着まで押し上げており存在感は十分にあった。「勝負所の反応が以前ほどで無いのは年齢的な衰えというよりはズブさ、乗り難しさが出ているのかな」と荒井師も慎重だが、なんと言ってもこの馬にとっては好相性コース。気持ちよく戦って一変…の可能性は十分にあるだろう。

状態面としては悪くない、変わらないのですが、少しズブさが出てきているのかも。左回りでも広い盛岡は戦いやすいと思うのでそこに期待を。（荒井朋弘調教師）

■ビップアクア(牝7 岩手・佐々木由則厩舎)



JRA時代の初勝利が1200mでその後の勝ち星も1400mまで。どちらかといえば短距離ほど良い馬という印象を抱いていて、実際マイル以上の勝ち星はまだ無い本馬なのだが、A級マイルでも掲示板圏内を確保しているだけでなく前走では1800mで4着。7歳牝馬ながらこれまでのイメージを変えるような走りを見せてきている。ベストは短めの距離、短距離の差し馬なのは変わらないだろうが、マイル以上でも決め手を発揮できるようになっている点は覚えておきたいところだ。

距離は確かに懸念するところだけど流れさえ向けば最後は伸びてくる馬。交流重賞らしい速い流れになればおもしろいね。（佐々木由則調教師）

■ヘニータイフーン(牝6 大井・荒山勝徳厩舎)



提供:TCK (東京シティ競馬)

JRAオープンから昨秋に大井移籍。ここまで重賞級の勝ち星こそないものの牝馬重賞では上位争いをしているし転入初戦でもアランバローズやナンセイホワイトら牡馬の強豪を退けているのだから地力の高さは明白と言っていい。焦点はやはり距離。2000mを経験していないのは遠征勢7頭の中で本馬が唯一、JRA時代の戦績も含めて1700～1800m、もう少し短い距離でも良いのかもという実績・経験からすれば距離対応がどうだろうか？と感じるのは自然なところ。備えた能力の高さで突破できるかどうか注目だ。

ひと息後ですが態勢は整いました。左回りは良いと思いますが距離は1800mくらいが良さそう。初の2000mに対応できるか？がカギになるのでは(荒山勝徳調教師)

■ライトピラー(牝5 兵庫・渡瀬寛彰厩舎)



©兵庫県競馬組合

兵庫転入当初から崩れず戦っていたが昨秋頃から怒濤の6連勝＆一気にクラスを上げて今や重賞でも上位を争えるほどに。その成績、その上昇曲線はそのまま本馬の成長の現れと見ていい。「来た当初から能力の高さを感じていた馬でいずれはタイトルを…」と思っていました。鞍上から“直線が長いコースの方が良い”というアドバイスもあり、秋桜賞も検討しましたがこちらの方がより力を出せると考えました」と渡瀬師。全国交流レベルで通用するのは証明済み。ここでいよいよタイトル奪取なるか。

長距離の遠征競馬はうちに来てから初めてですが輸送の経験はありますし距離も合う。コース的にもこの馬向きと見ての遠征なので期待していますよ。(渡瀬寛彰調教師)

■ツーシャドー(牝7 浦和・小澤宏次厩舎)



©埼玉県浦和競馬組合

現時点で最も勝ち星が多い距離は1400m、それも地元浦和での勝利だが距離に不安は無いと言う。「昨年の埼玉新聞栄冠賞では2000mで牡馬の強いところと戦えている。牝馬限定なら通用してくれていい(小澤師)」。そして「ここで良い結果を出してくれるようならグランダムジャパンの路線を進んでいきたい。そのためにも試金石ですね」とも。実は本馬は4月の時点で引退が検討されていたそうだが地元重賞勝ちで撤回した経緯がある。ベテランと言える7歳牝馬だがまだまだ前を向いているようだ。

1400mの実績が多いですが距離は問題ないと思っています。左回りや輸送も大丈夫。力量的にも牡馬と2000mでやれていますからね。今後に向けて良い結果を。(小澤宏次調教師)

■ツアーモデル(牝6 岩手・菅原学厩舎)



門別から岩手に移籍してきたのが4年前の冬。足かけ5シーズンに渡って息長く活躍してきた。所属はずっと小西重征厩舎だったが同師の引退にともなって弟子の菅原学調教師に引き継がれ、前走では3歳時以来の重賞出走も果たしている。近走の着順の数字こそ昨年や一昨年ほどには揃っていないが、B1級上位の、元A級の牡馬も多いクラスで崩れず戦えているのは高く評価できるし、それからすればフェアリーカップの5着にもうなずけるものがある。遠征馬が加わってきた今回の相手関係は確かに厳しいが一歩でも前へ。

7月からの休み明け3走目になりますし状態面は良いですね。ここは相手が強いですが次に繋がるレースができれば。（菅原学調教師）

■キタノブライド(牝6 岩手・畠山信一厩舎岩手競馬重賞見どころ)



JRA2勝クラスから南関東を経てこの春に岩手転入。当初からA級上位で、それも牡馬相手に勝ち負けしており地力は高く評価できるものだったが、前走のフェアリーカップを制して初の重賞制覇を達成するとともに力量も証明した。白星先行でないために目につくづらい部分はあるが、二走前の芝重賞も含めて転入後は他の牝馬に先着を許していない。今回は南関OP級・JRAOP級という実績があった遠征馬が多く厳しいのは確かだが、地元アドバンテージが味方にもなってくれるはずだ。

前走は距離がちょっと長いかと心配していましたが対応してくれた。今回のメンバーは強いですが前走くらいの競馬ができれば、あとは地元の利もあるのでは。（畠山信一調教師）

■ローリエフレイバー(牝5 大井・月岡健二厩舎)



昨年のこのレースを勝ったあと、手綱を取った野畑騎手は「気難しい女の子っていう感じの馬」と表現していた。実際、その成績は強い競馬で勝ち切るか最下位近くで大敗するか？で実に掴み所がないのだが、一方で昨年のこのレースがそうだったように確かな強さを備えた馬なのも間違いがない。果たして今回はどちらの姿を見せてくれるだろうか？その点で大外枠、昨年同様の“絶好枠”を引いたのは心強い材料だろう。陣営が認めるとおり揉まれづらい外枠はベストだし広くてゆったり流れるコース形態も良い。昨年の再現があって全く不思議はないはず。

小回りの前走はこの馬向きの流れにならなかった。中間は放牧に出しゲート練習も含めて態勢を整えました。休み明けでも力を出せる状態で向かえるでしょう。（月岡健二調教師）

文・特記無き写真／横川典視

写真提供／埼玉県浦和競馬組合／TCK（東京シティ競馬）／兵庫県競馬組合（※掲載順）